

本書の特徴と使い方



❖本書の特徴

本書の目的には、2つのことがある。一つは、「書く内容にふさわしい動詞を見つけること」。もう一つは、「使える動詞のボキャブラリーを増やすこと」だ。そのために次の2つの工夫を行った。

1) 動詞を、意味によって分類した

分類は、拙著『ライフサイエンス英語類語使い分け辞典』で最初に示したものであるが、さらに検討を加えて改良した。

主な変更点としては、見出し語の選定をより柔軟に行い、同じ動詞でも意味や用法によって以下のように別々の見出し語にした。

- ・他動詞の能動態と受動態を別の見出し語として示した
- ・同じ単語で自動詞と他動詞がある場合、別々の見出し語で示した
- ・複数の意味で使われる動詞についても、別見出しにした

能動態と受動態はほとんど裏返しの関係にあり、使い方が大きく異なる。別にすることによって、それぞれの使い方が非常にわかりやすくなった。

さらに、be 動詞 + 形容詞も見出し語に加えてカバーする文型の範囲を広げた。

さらなる変更点として、同一の分類に入る動詞の数を増やしたことがある。意味が非常に近い単語だけでなく、実質的に同じような内容を表す動詞、同じような使い方をする動詞を、できるだけひとつの分類にまとめた。これらの改良によって、単語を探すときの選択肢が広がり、動詞を見つけたり使い方を比較したりする作業が格段に行いやすくなったはずである。

2) 動詞の前後に来る語の組み合わせを示した

2 番目の工夫は、動詞の用法を詳細に検討して収録したことである。動詞の前で主語となる語、および動詞のあとに続く語（目的語など）を定量的に調べて、よく使われるものから順に示した。これが『類語使い分け辞典』と比較して大きくグレードアップした点である。これらを参考にすれば、それぞれの動詞をどのように使うのかがよくわかる。類義語との違いも、前後の語の組み合わせを確認することによって理解できる。さらに本書には、見出し語の出現回数（用例数^{*1}：11 ページ参照）も示してあるので、それも動詞選択の参考にするとよいだろう。

論文では同じようなパターンの内容を何度も述べることもあり、どうしても同じ単語を繰り返し使いがちだ。このようなときにこそ本書を使って、置き換えて使える単語を見つけよう。もし類義語の中で迷ったら、出現回数の多いものから順に使っていけばよい。いろいろな単語を使ってみることで、書くための動詞のボキャブラリーを増やすことができる。

❖ 本書の構成と使い方

- ①本書は、前述したように動詞を意味で分類しており、大きく3つの章に分かれる。各章はさらに細かく節に分かれており、詳しくはこの後の単語分類リスト（13～20 ページ）を参照していただきたい。まずはここを探して目的の単語を見つけよう。
- ②各節のはじめのページに、同じ分類に含まれる動詞の一覧を示しており（次ページの**上図**を参照）、意味が似ている単語の使い方を比較することができる。
- ③各動詞の解説ページにて、詳しい使い方や例文などを調べよう（次ページの**下図**を参照）。

第1章 目次 研究の計画・実施・報告に関する動詞

1 大分類

1-1 示す
4. 提示する／提供する
[「提示する」「提供する」の動詞は、他動詞のパターンで使われる。]

提示する present	(7,000) ⇒ 8
提供する provide	(1,000) ⇒ 8 / (5,100) ⇒ 9
与える give	(3,000) ⇒ 8 / (6,000) ⇒ 9, 10

*** 意味・用法**

④ 意味・用法

① **意味・用法**

- present, provide, offer は「提供や献がなを」と表示する／提供するという意味で使われる。
- present は人と著者（we）のみを主語とし、彼に offer は結果や方法などを主語とする。provide はその両方を主語とする。
- give は（結果など）と与える場合、confer は（献技など）と与える場合に使われる。

2 分類項目

3 見出し語リスト

(この表は、論文の査読者のコメントから抽出されたもの)

*** 言い換え可能な動詞** — 単語が代わっている動詞と前後の語句の組合せが同じ

主語	動詞	後に来る語句
we review	present provide	evidence ~ method ~ model ~ approach

We "present"/"provide" evidence for major functional defects.
 図 われわれは、大きな機能的欠陥の証拠を提供する

主語	動詞	後に来る語句
results study method system approach findings data model	offer provide	~ opportunity ~ approach ~ insight into ~ explanation ~ means ~ mechanism ~ model ~ protection ~ evidence

Our findings <offer/>provide new insights into the workings of these neurons.
 図 われわれの知見は、これらのニューロンの働きへの新しい洞察を提供する

5 動詞に結びつく主語のカテゴリー

主語の種類	人	動物	植物	無生物	物質	場所	時間	抽象概念	複合主語	不定代名詞	動詞
人	●										present (提示する) provide (提供する) offer (提供は下る) give (与える) confer (与える)
動物	●	●									
植物	●	●	●								
無生物	●	●	●	●							
物質	●	●	●	●	●						
場所	●	●	●	●	●	●					
時間	●	●	●	●	●	●	●				
抽象概念	●	●	●	●	●	●	●	●			
複合主語	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
不定代名詞	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

5 動詞に結びつく主語のカテゴリー

7 見出し語

offer 提供する

● 研究や結果・方法などが、機会や利点などを提供する意味で使われる。

例 ① 論文 研究の進展・実用

用例数 6,100

82% 論文・文法辞書

受動形約5%

後に来る単語 (主語)

～ opportunity (～機会)

～ advantage (～利点)

～ approach (～アプローチ)

→ insight into (～への「洞察」)

→ explanation (～説明)

→ promise (～約束)

→ possibility (～可能性)

→ strategy (～戦略)

→ means (～手段)

→ mechanism (～機構)

→ potential for (～ための「可能性」)

前に来る単語 (動詞)

results (結果)

study (研究)

method (方法)

model (モデル)

system (システム)

approach (アプローチ)

findings (見出し)

data (データ)

model (モデル)

technique (技法)

technology (テクノロジー)

therapy (療法)

also

give 与える

give 与える

● 方法や結果が結果や情報を与えるときに使う

例 ② 論文 研究の進展・実用

用例数 4,500

82% 論文・文法辞書

受動形約35%

「to be given」

後に来る単語 (主語)

we (われわれ)

method (方法)

model (モデル)

results (結果)

study (研究)

data (データ)

essay (エッセイ)

前に来る単語 (動詞)

→ results (～結果)

→ insight into (～への「洞察」)

→ products (～産物)

→ information (～情報)

→ evidence (証拠)

→ estimates (～推定)

→ support (～支援)

8 前に来る単語 (主語) と 後ろに来る語句

▶ 使い方の例

- system **offers** a unique opportunity
- method **offers** several advantages
- technology **offers** a powerful approach
- findings **offer** new insights into
- results **offer** a possible explanation
- approaches **offer** the promise
- therapy **offers** the possibility
- studies **offer** a strategy
- essay **offers** a potential means
- data **offer** a potential mechanism

① ② この system は、ユニークな機会を提供する
方法はいくつかの利点を提供する
テクノロジーは強力なアプローチを提供する
見出し、への新しい洞察を提供する
結果、可能な説明を提供する
アプローチ、見込みを提供する
治療、可能性を提供する
研究に、戦略を提供する
エッセイは、潜在的な手段を提供する
データは、潜在的な機構を提供する

③ この system は、コラーゲンの研究のための新しい機会を提供する

give 与える

▶ 使い方の例

- assays **give** comparable results
- results **give** new insights into
- model **gives** real-time information
- we **give** evidence
- model **gives** reasonable tortuosity estimates
- study **gives** further support

④ ⑤ この assay は、皮膚癌の組織サンプルから69人のヒト、および6匹のバブーネと6匹のマカ、顕微鏡的100%の specificity (Transplantation, 1999 68:183)

⑥ ⑦ この assay は、サイロキシンで付着したリンパ球のリンパ球の組織サンプルから69人のヒト、および6匹のバブーネと6匹のマカ、顕微鏡的100%の specificity (Transplantation, 1999 68:183)

9 使い方の例・例文

1 大分類

収録した見出し語は意味別に I-A から III -D までの 12 項目に大きく分類してある〔単語分類リスト (13 ~ 20 ページ) も参照のこと〕。分類は右ページの灰色のインデックスに対応している。

2 分類項目

似た意味の見出し語がさらに細かくグループ分けされており、これが実質的な分類である。どのような表現のパターンで用いられるかの説明も下に記載してある。

3 見出し語リスト

日本語訳、単語、出現回数(用例数^{*1})を一覧に示す。

4 意味・用法

どのような場合に使われるか、意味が似ている単語の使い分けなどについて概説した。

5 動詞に結びつく主語のカテゴリー

ライフサイエンス分野の論文において主語としてよく用いられる語を 15 のグループに分類し(次ページの図を参照)、動詞との対応を表に示した。意味が同じ動詞でも主語として使える単語のジャンルに違いがあることがわかる。なお分類に関する詳細は拙著『ライフサイエンス論文を書くための英作文 & 用例 500』を参照していただきたい。

6 言い換え可能な動詞

意味・用法が似ている動詞と、前後の語の組み合わせ例を示した。ここで挙げられている動詞は、互いに入れ替えて用いることができる。

7 見出し語

日本語訳のほかに、他動詞/自動詞の区別、用例数、文型も併せて示す。文型については 665 ~ 719 ページにて詳しく解説している。他動詞の場合は受動態率も示した。

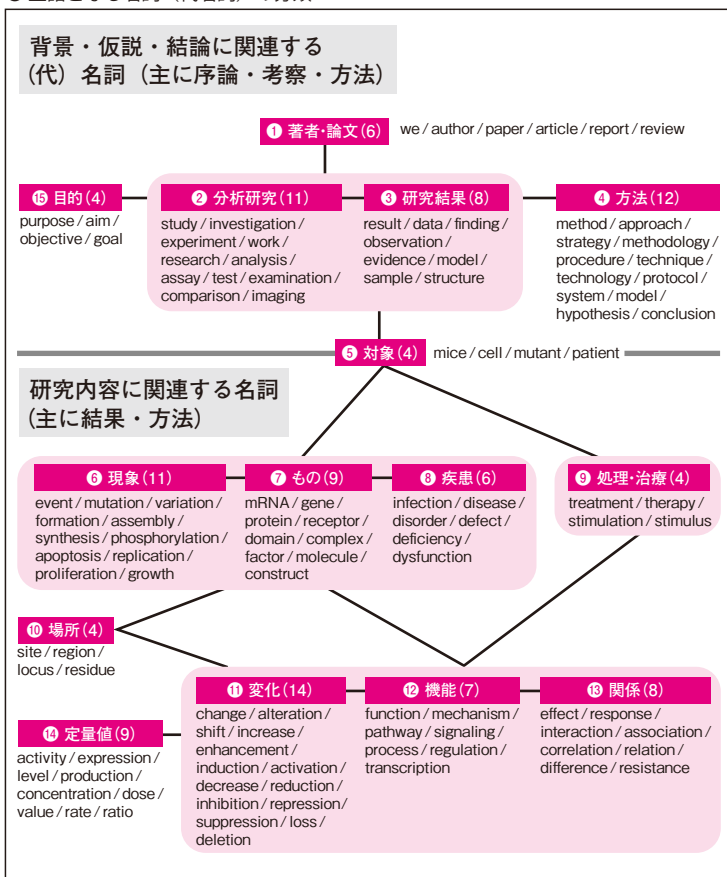
8 前に来る単語(主語)と後ろに来る語句

前述の本書の特徴の 2) を参照。特に頻出する語は下線で示した。

9 使い方の例・例文

8 の組み合わせの例とその訳を挙げた。例文は、PubMed 論文抄録から典型的な生の論文を引用。論文を書く際に参考となる英文が満載である。なお、日本語訳は下線部分のみに対応している。

● 主語となる名詞（代名詞）の分類



詳細は、『ライフサイエンス論文を書くための英作文 & 用例 500』を参照

※ 1：用例数の算出方法

本書に示す数字は、LSD コーパス^{*2}中での用例数を表している。ただし、算出にあたって以下の点を考慮した。「過去形と過去分詞形」あるいは「動詞と名詞」が同形の場合、形の上からは区別できない。そこで一定数の文を実際読んで確認し、全体数を推定で算出した。「be 動詞 + 副詞 + 過去分詞」の数も同様に算出して、用例数に加えた。「be 動詞 + 形容詞」では、be 動詞 + 形容詞 + 名詞の数を差し引いて算出した。また、ing 形は論文では分詞としての用例が圧倒的に多い。進行形で用いられる場合もあるが、原則として用例数としてはカウントしなかった。

動詞の前あるいは後に来る語についても、数字は省略したが多いものから順に示してある。主語は必ずしも動詞の直前にくるとは限らないが、主語が直前にくる場合の主語 + 動詞のパターンの比率は、その名詞と動詞が実際に主語と動詞の関係である場合の比率をおおむね反映している。そこで直前の名詞 + 動詞の数を判断基準とした。ただし、この場合のカウントでは、主語の単数形・複数形などと動詞の三人称単数形・複数形などが文法的に矛盾しない場合だけを選んで計算した。また、名詞が複数形で使われることが多い場合には、本書でも複数形で示した。通常、単数形が多い名詞の中で複数形で多く使われるということは、それだけ特有の用法を反映していることが多いからだ。複数形で示してある名詞は、まずは複数形で使うことを考えよう。

※ 2：LSD コーパスについて

本書の内容のもとになっているのは、ライフサイエンス辞書 (LSD) プロジェクトが独自に構築したライフサイエンス分野の専門英語のコーパスである。コーパスとは、言語研究などのために一定の基準に従って収集された言語データのことを言うが、ここでは「論文抄録のデータベース」のことを指している。

ライフサイエンス分野では PubMed と呼ばれる無料の文献データベースがあるが、LSD では、そこから主要な学術誌 (約 150 誌) を選び、1998 年から 2008 年までの間にアメリカまたはイギリスの研究機関から出された論文抄録 (総語数約 7,700 万語) を集めてコーパスを構築してある。論文コーパスのコンピュータ解析によって得られた頻度情報 (本書では用例数として示している) を最大限考慮して編纂することによって、本書では、実際の学術論文で好んで使用される「活きた英語」を提示できているものと思う。

LSD コーパスは、LSD プロジェクトのホームページ、WebLSD (<http://lsd-project.jp/ja/index.html>) から利用できる。本書と合わせて、ぜひ論文執筆などに活用していただきたい。

(河本 健)